

グローバルサウスにおける医療アクセス向上に向けた富士フィルムの挑戦

結核対策を起点とした携帯型X線撮影装置の活用と1次医療の強化

富士フィルムメディカルシステム事業部マネージャー

大塚琢磨

おろつか たくま



医療アクセスの構造的課題

グローバルサウス諸国では、結核のような感染症をはじめとする「予防・診断可能な疾病」によって、今なお多くの命が失われている。その背景には、医療人材や医療機器の不足、交通インフラの未整備、電力事情の不安定さ、都市部と地方部の医療アクセス格差といった複合的な課題がある。とりわけ地方や遠隔地では、症状があっても医療機関に到達できず、検査の機会が得られないことが重症化や感染拡大の一因になっていると考えられる。

当社は「事業を通じて社会課題の解決に貢献する」という理念のもと、予防・診断・治療に幅広く価値を提供するトータルヘルスケアカンパニーを目指している。中でもグロー

バルサウスにおいては、医療の入り口である「検診(スクリーニング)」を現場で機能させ、適切な医療につなげる仕組みづくりが重要であるとの認識のもと、技術提供と運用の実装を一体で進めている。

結核対策における検診機会の拡充

結核は、結核菌が体内に入って感染し、発病した人の咳などを介して伝播する感染症である。発症初期は咳や発熱など風邪に似た症状であるため、早期に結核の「兆候」を拾い上げ、適切な検査と治療につなげることが重要となる。一方グローバルサウス諸国では、結核を発病しているにもかかわらず検査を受けられない人々が一定数生じ、各国の結核対策プログラムから見逃される層が毎年発生

している。実際、WHOの最新レポート(Global tuberculosis report 2025)によれば、2024年に結核を発病した人は推計約1070万人である一方、同年に新たに診断され当局に報告された人数は約830万人にとどまる(約240万人が診断に至っておらず、見逃されている「未診断者層」と推定される)。

この未診断者層が問題なのは、本人の重症化リスクが高まるだけでなく、診断・治療に至らない期間が長いほど地域内での感染連鎖が継続し、結果として結核のまん延が固定化しやすい点にある。にもかかわらず、未診断者層は都市部の医療機関から遠い居住地、交通費の負担、医療従事者や機材の不足、さらには結核に対する知識不足など、複合的な障壁の中に存在するため、従来型の「医療機関

で待つ診断」だけでは捉えきれない。したがって、結核終息に向けては、医療アクセスが困難な地域においても検診機会を確保し、病気の兆候を早期に拾い上げ、治療へ確実につなげる仕組みづくりが不可欠となる。

携帯型X線を活用した現場展開モデル

そこで当社は、小型・軽量で可搬性に優れた携帯型X線撮影装置を中核に、AI技術を活用し画像解析で検診をサポートするアプリケーション等も利用することで、現場完結型の検診ソリューションを提案している。専門医が不足する地域でも、疑い例の抽出を支援し、検診の質とスピードの両立を図ることで、診断機会を拡大し、治療への接続を後

押しする狙いである。当社の取り組みは、グローバルサウス全体の医療課題に対する水平展開を意識している。すなわち、①機材を現場へ運べること、②現地の電力・施設制約下でも運用できること、③専門人材が限られても検診が回ること、④治療プログラムへ接続できること、という要件を満たす形で、各国・各地域の実情に合わせて実装していく考え方である。

1次医療強化につながる持続的アプローチ

具体的な取り組みの一つが、ケニア共和国で進めている、携帯型X線撮影装置を活用した巡回検診の実証事業である。都市部から離れた農村部など健康診断にアクセスしづらい

住民に検診を受ける機会を届け、得られたデータを基に1次医療の強化につなげることを狙いとして、現地パートナー(NGO)や地方の保健当局と連携し、検診オペレーションの確立と人材育成を同時に進めている。2024から2025年にかけては、経済産業省が推進するグローバルサウス未来志向型共創等事業の採択を受け、約半年間で2000人以上に検診を行った。この事業で結核疑い等を含む所見が確認されたケースについては、現地保健省スタッフと情報共有し、医療機関への連携を行っている。

こうした携帯型X線撮影装置の価値は結核検診にとどまらない。1次医療機関に配備されれば、結核以外にも腹部領域や全身の骨など1次診療に必要な部位の撮影に活用でき、現場での簡易診療や経過観察を可能にする。1次医療が機能すれば、本当に高度な医療が必要な患者を大病院が担うという効率的な医療提供体制にもつながり得る。結核対策を起点としつつ、1次医療の底上げへ波及させることは、グローバルサウスにおける医療の質向上と健康増進を同時に進めるうえで有効な方向性である。

当社は今後も、グローバルサウスの現場課題に即した形で、検診を軸にした医療アクセス改善に取り組み、各国・各地域のパートナーと共に持続可能なモデルを積み上げていく。早期発見の機会を広げ、適切な治療につなげることを通じて、医療の質向上と健康増進、ひいては社会の安定と発展に貢献していきたい。



ケニアでの巡回検診におけるX線撮影の様子



撮影したその場ですぐに画像確認が可能

(注)WHOはウェブサイト(<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/tuberculosis>)で、2024年の結核発病者が推計1,070万人、死亡者が123万人であったと発表した。結核が予防可能、治療可能であり、症例と死亡の80%超が低・中所得国(LMICs)に集中していると明記している。